

令和6年度ネットリサーチ「男女共同参画に関する意識」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

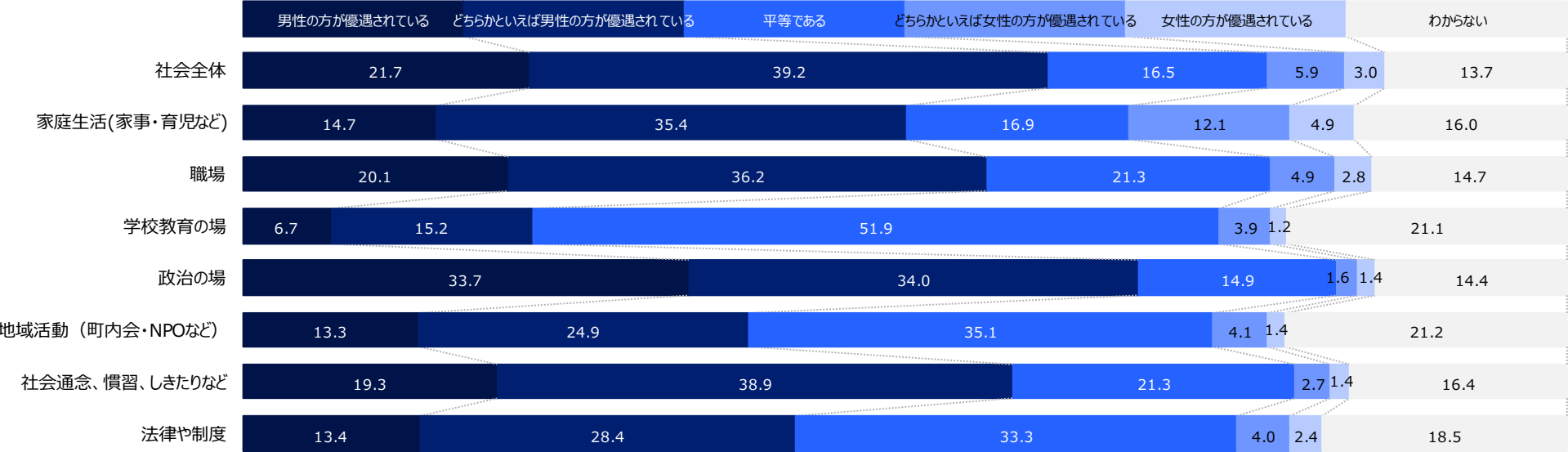
- 女性が職業をもつことに対する考え方については、「こどもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が45.4%で最も高く、「わからない」が23.5%、「こどもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が13.8%と続く。
- 男性の育児休業取得に対する課題については、「職場に育児休業を取りやすい雰囲気がない」が49.8%で最も高く、「休業中の賃金補償」が38.2%、「代替要員の確保が困難」が36.3%と続く。
- 男女共同参画実現に向けた効果的な取組については、「関係する制度の制定や見直し」が38.6%で最も高く、「子どものころからの男女共同参画教育」が38.0%と続く。

■調査結果の概要

1 分野別の男女の地位の平等感

- ◇ 「社会全体」について、「男性の方が優遇されている（21.7%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（39.2%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が60.9%となっている。
- ◇ 「家庭生活(家事・育児など)」について、「男性の方が優遇されている（14.7%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（35.4%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が50.1%となっている。
- ◇ 「職場」について、「男性の方が優遇されている（20.1%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（36.2%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が56.3%となっている。
- ◇ 「学校教育の場」について、「平等である」が51.9%となっている。
- ◇ 「政治の場」について、「男性の方が優遇されている（33.7%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（34.0%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が67.7%となっている。
- ◇ 「地域活動（町内会・NPO など）」について、「男性の方が優遇されている（13.3%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（24.9%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が38.2%となっている。
- ◇ 「社会通念、慣習、しきたりなど」について、「男性の方が優遇されている（19.3%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（38.9%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が58.2%となっている。
- ◇ 「法律や制度」について、「男性の方が優遇されている（13.4%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（28.4%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が41.8%となっている。

Q1.あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。



	n	男性の方が優遇されて いる	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が優遇されて いる	わからない
社会全体	100.0 1000	21.7 217	39.2 392	16.5 165	5.9 59	3.0 30	13.7 137
家庭生活(家事・育児など)	100.0 1000	14.7 147	35.4 354	16.9 169	12.1 121	4.9 49	16.0 160
職場	100.0 1000	20.1 201	36.2 362	21.3 213	4.9 49	2.8 28	14.7 147
学校教育の場	100.0 1000	6.7 67	15.2 152	51.9 519	3.9 39	1.2 12	21.1 211
政治の場	100.0 1000	33.7 337	34.0 340	14.9 149	1.6 16	1.4 14	14.4 144
地域活動（町内会・NPOなど）	100.0 1000	13.3 133	24.9 249	35.1 351	4.1 41	1.4 14	21.2 212
社会通念、慣習、しきたりなど	100.0 1000	19.3 193	38.9 389	21.3 213	2.7 27	1.4 14	16.4 164
法律や制度	100.0 1000	13.4 134	28.4 284	33.3 333	4.0 40	2.4 24	18.5 185

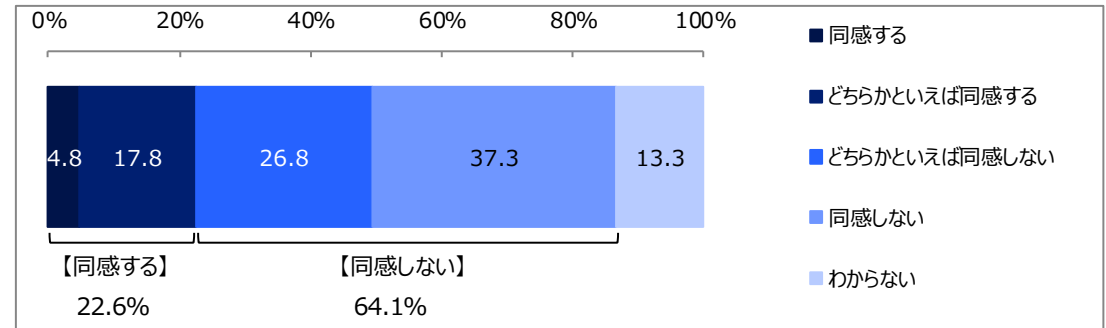
2 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に対する意識

☆ 「同感する（4.8%）」、「どちらかといえば同感する（17.8%）」を合わせた【同感する】が22.6%となっている。

☆ 一方、「どちらかといえば同感しない（26.8%）」、「同感しない（37.3%）」を合わせた【同感しない】が64.1%となっている。

Q2.「男性は仕事、女性は家庭」という考えがありますが、あなたはこの考えに同感しますか。次の中から自分の考えに一番近いものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
同感する	4.8	48
どちらかといえば同感する	17.8	178
どちらかといえば同感しない	26.8	268
同感しない	37.3	373
わからない	13.3	133

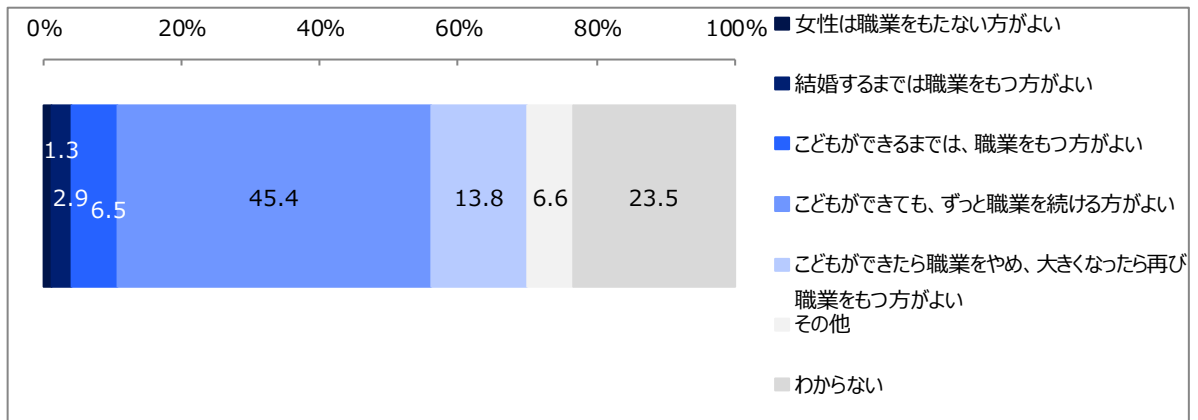


3 女性が職業をもつことに対する意識

☆ 「こどもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が45.4%で最も高く、「わからない」が23.5%、「こどもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が13.8%と続く。

Q3.一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。次の中から自分の考えに一番近いものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
女性は職業をもたない方がよい	1.3	13
結婚するまでは職業をもつ方がよい	2.9	29
こどもができるまでは、職業をもつ方がよい	6.5	65
こどもができて、ずっと職業を続ける方がよい	45.4	454
こどもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	13.8	138
その他	6.6	66
わからない	23.5	235

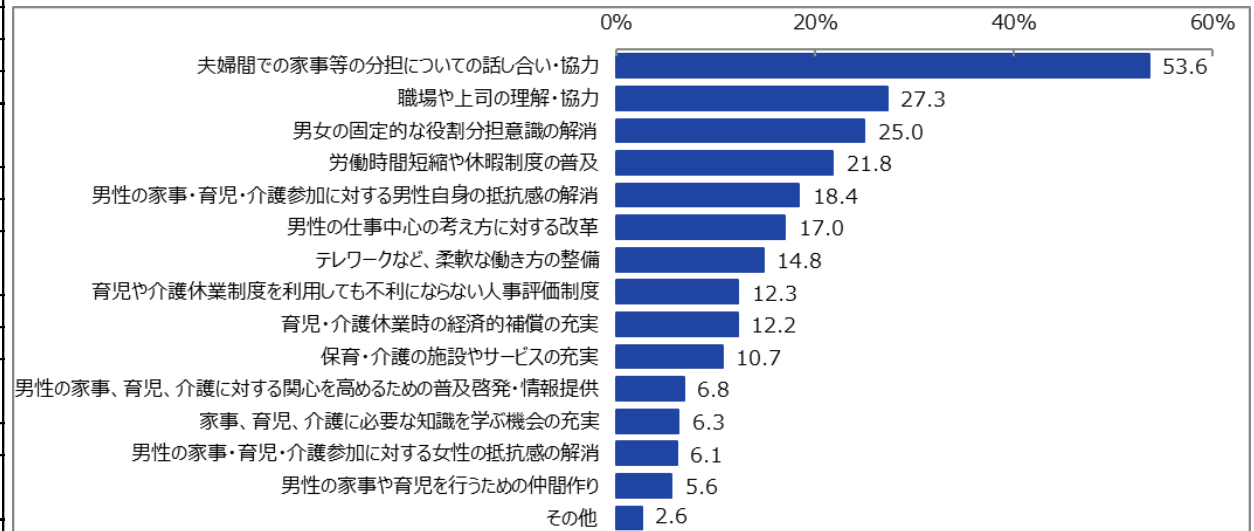


4 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なこと

☆ 「夫婦間での家事等の分担についての話し合い・協力」が53.6%で最も高く、「職場や上司の理解・協力」が27.3%と続く。

Q4.男性が女性とともに家事、育児、介護に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
夫婦間での家事等の分担についての話し合い・協力	53.6	536
職場や上司の理解・協力	27.3	273
男女の固定的な役割分担意識の解消	25.0	250
労働時間短縮や休暇制度の普及	21.8	218
男性の家事・育児・介護参加に対する男性自身の抵抗感の解消	18.4	184
男性の仕事中心の考え方に対する改革	17.0	170
テレワークなど、柔軟な働き方の整備	14.8	148
育児や介護休業制度を利用しても不利にならない人事評価制度	12.3	123
育児・介護休業時の経済的補償の充実	12.2	122
保育・介護の施設やサービスの充実	10.7	107
男性の家事、育児、介護に対する関心を高めるための普及啓発・情報提供	6.8	68
家事、育児、介護に必要な知識を学ぶ機会の充実	6.3	63
男性の家事・育児・介護参加に対する女性の抵抗感の解消	6.1	61
男性の家事や育児を行うための仲間作り	5.6	56
その他	2.6	26



【参考】共働き世帯が1日の中で費やす時間（「令和3年社会生活基本調査結果（総務省）」より）

○育児や介護、家事など※：男性53分、女性4時間18分 ※家事、介護・看護、育児、買い物の合計時間

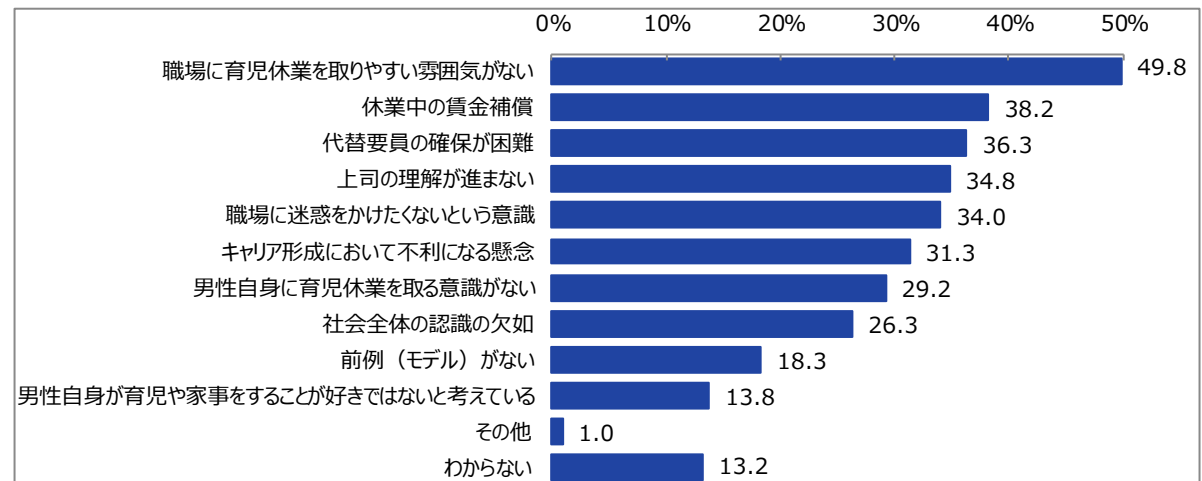
○仕事：男性6時間54分、女性4時間16分

5 男性の育児休業取得に対する課題

☆ 「職場に育児休業を取りやすい雰囲気がない」が49.8%で最も高く、「休業中の賃金補償」が38.2%、「代替要員の確保が困難」が36.3%と続く。

Q5.あなたは、男性が育児休業を取得するにあたり、課題は何だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
職場に育児休業を取りやすい雰囲気がない	49.8	498
休業中の賃金補償	38.2	382
代替要員の確保が困難	36.3	363
上司の理解が進まない	34.8	348
職場に迷惑をかけたくないという意識	34.0	340
キャリア形成において不利になる懸念	31.3	313
男性自身に育児休業を取る意識がない	29.2	292
社会全体の認識の欠如	26.3	263
前例（モデル）がない	18.3	183
男性自身が育児や家事をすることが好きではないと考えている	13.8	138
その他	1.0	10
わからない	13.2	132

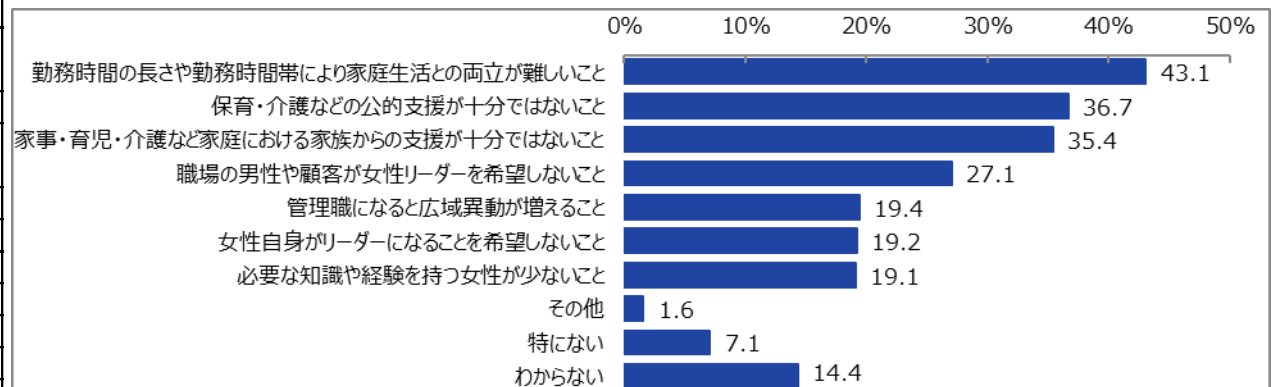


6 女性がリーダーとして活躍する際の障害

☆ 「勤務時間の長さや勤務時間帯により家庭生活との両立が難しいこと」が43.1%で最も高く、続いて「保育・介護などの公的支援が十分ではないこと（36.7%)」、「家事・育児・介護など家庭における家族からの支援が十分ではないこと（35.4%)」と続く。

Q6.あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性がリーダーとして活躍する際に障害となるものは何だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
勤務時間の長さや勤務時間帯により家庭生活との両立が難しいこと	43.1	431
保育・介護などの公的支援が十分ではないこと	36.7	367
家事・育児・介護など家庭における家族からの支援が十分ではないこと	35.4	354
職場の男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	27.1	271
管理職になると広域異動が増えること	19.4	194
女性自身がリーダーになることを希望しないこと	19.2	192
必要な知識や経験を持つ女性が少ないこと	19.1	191
その他	1.6	16
特にない	7.1	71
わからない	14.4	144

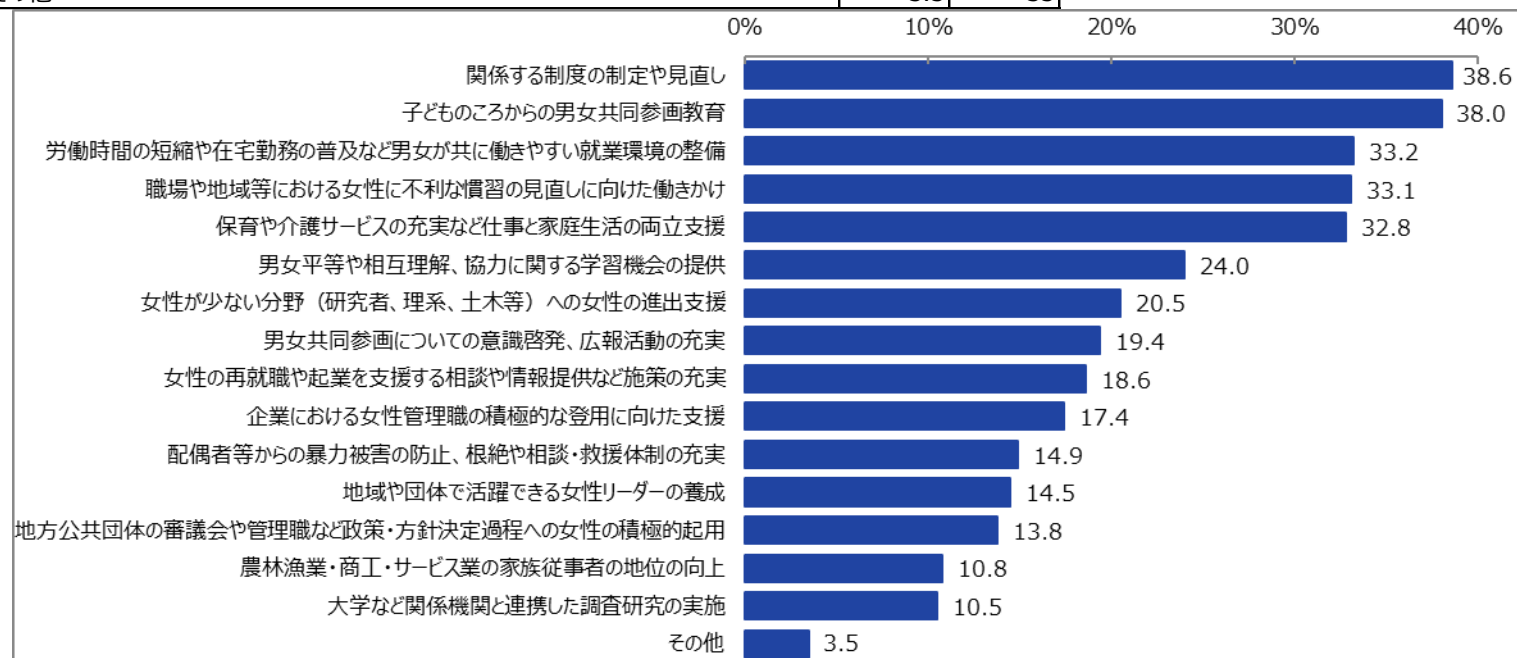


7 男女共同参画実現に向けた効果的な取組

☆ 「関係する制度の制定や見直し」が38.6%で最も高く、「子どものころからの男女共同参画教育」が38.0%と続く。

Q7.「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」です。男女共同参画社会を実現するためには、県や市町村は今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
関係する制度の制定や見直し	38.6	386
子どものころからの男女共同参画教育	38.0	380
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女が共に働きやすい就業環境の整備	33.2	332
職場や地域等における女性に不利な慣習の見直しに向けた働きかけ	33.1	331
保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活の両立支援	32.8	328
男女平等や相互理解、協力に関する学習機会の提供	24.0	240
女性が少ない分野（研究者、理系、土木等）への女性の進出支援	20.5	205
男女共同参画についての意識啓発、広報活動の充実	19.4	194
女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供など施策の充実	18.6	186
企業における女性管理職の積極的な登用に向けた支援	17.4	174
配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実	14.9	149
地域や団体で活躍できる女性リーダーの養成	14.5	145
地方公共団体の審議会や管理職など政策・方針決定過程への女性の積極的起用	13.8	138
農林漁業・商工・サービス業の家族従事者の地位の向上	10.8	108
大学など関係機関と連携した調査研究の実施	10.5	105
その他	3.5	35



■調査の目的

茨城県では、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を目指している。

男女の地位の平等感や家事・育児分担、女性活躍の推進など、男女共同参画に関する意識について調査し、今後の施策推進の参考とする。

■実施概要

- ・実施期間：令和7年1月17日～1月26日
- ・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和6年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		110	246	93	362	189	1,000
性別	男性	57	126	50	187	99	518
	女性	53	120	43	175	90	482
年代別	18～29歳	17	41	16	70	33	177
	30歳代	16	42	16	61	30	165
	40歳代	21	54	20	81	41	217
	50歳代	28	59	21	83	44	235
	60歳代	28	50	20	67	41	206

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

（注）

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。
4. 男性18～29歳の回収件数は、「鹿行」及び「県西」の地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、男性30歳代で「鹿行」1サンプル及び「県西」6サンプルを超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。